

取り組むテーマ

Community

社会

地域と連携しパートナーシップによりビジネス形成

SDGsの取組で社会や人をつながる

コネクトアラウンドは、農業分野でのテクノロジーと異業種プロフェッショナルのアイデアを融合させた新たな農業ビジネスを構築し、ダイバーシティ&インクルージョンの実現と地域の障害者雇用の促進に取り組んでいます。



代表取締役 浅井 司さま

#01

企業事例

株式会社コネクトアラウンド

- 創業:2022年4月1日
- 神奈川県川崎市中原区新城1-12-14
(※FUN EAT MAKERS武蔵新城)
- 事業内容:農産物および食料品の生産・加工・販売/レンタルワークスペースの運営/飲食業/ブランディング・プロモーション
- 代表取締役:浅井 司
- 従業員数:13名

※FUN EAT MAKERS武蔵新城
リーフ野菜などの水耕栽培や2次加工品の製造、販売、飲食事業を行う6次化農業ビジネス&実習施設

室内でできる
水耕栽培の誕生

農業分野でプロフェッショナルとなる人たちが活躍することを通して、農業全体の振興や経済発展など付加価値の提供を目指すことが、自社の事業の根幹にあります。

農業の現場では、経験値や天候、自然災害などの影響で収入が安定しないためなかなか継続が難しい、後継者などの担い手が減少しているといった課題があります。その課題を解決するために、一年を通して収穫できる室内空間での水耕栽培を始めました。

農業はそもそも環境負荷が高いと言われています。化学肥料はCO₂を排出して製造され、植物が吸わなかった分は、地下水の中に流れてしまいます。一方、水耕栽培では化学肥料の使用が圧倒的に少なく、水も循環して使っているため、環境負荷を減らしています。また、リーフレタスなど葉物野菜は太陽光で

なくても育ち、すべて食べられるので生産効率が良く、1カ月ほどで収穫可能です。この取組を促進するため、生産した葉物野菜をサラダやお弁当、スムージーなどに加工し、販売する、6次化農業施設「FUN EAT MAKERS」を開発しました。この施設を持続可能なビジネスとするため、福祉施設への昼食提供や企業へのケータリング、テイクアウトなどの販路開拓にも取り組んでいます。

人の能力は
無限の可能性がある

自社の事業のもう一つの根幹は、雇用におけるダイバーシティ&インクルージョンの取組です。自社には「人の能力は無限の可能性を秘めている」という経営理念があります。人の能力はこれまでの経験やキャリアに関わらず、さらなる可能性があるはずです。私たちの事業で何ができるかと考えた



写真左より、6種類の野菜がひとつになったリーフパック。リーフを使ったサラダ、果物にスパイスをプラスしたフレッシュスムージー（リンゴ&白きくらげ、レタス&キウイ）等、店の人気商品

時、障害がある人たちの可能性を引き出す取組ができるのではないかと思います。

実際に、障害がある人たちがサポート器具を使うことで、農業法人で戦力として働く事例もあります。弊社の水耕栽培のマニュアルもその人に応じたやり方に書き換えることで業務ができるのではないかと思います。「ユニバーサルワークフロー」を開発しました。



ユニバーサルワークフローで 業務ミスなく作業進行

ユニバーサルワークフローとは、障害者の潜在能力を可視化して職務への適性を判断し、実際に水耕栽培の手順を言葉や文字ではなく、図や色分け、写真を使って分かりやすくマニュアル化したものです。

ユニバーサルワークフローを完成し、本格的にスタートするまでには9カ月ほどかかりましたが、その効果は驚くほど。障害がある人たちも能動的に仕事ができることが分かり、業務のミスも無くなりました。

私たちも業務の棚卸しをきっちりし

たことで、言わなくても分かると思い、そのままにした結果、行き違いが生まれミスが起きたことなど、マニュアルで曖昧にしていた部分にも気づかされました。ユニバーサルワークフローとは、障害がある人だけに限らず、その業務をミスなく能動的に行うためにも欠かせない手順書だと思います。

また、ユニバーサルワークフローの導入は、野菜の品質向上にも結びつき、自社の商品に関するクレームが減少したことの要因にもなっていると感じています。

今後の目標は フランチャイズ化

現在、「FUN EAT MAKERS 武蔵新城」の施設では、障害がある方の雇用は1件のため、将来的には増員していきたいと考えています。また、これからは野菜の生産だけでなく、お弁当製造の業務にもユニバーサルワークフローを導入しようと考えています。

自社の経営目標としては、この形態を普及させていくために、「FUN EAT MAKERS」のフランチャイズ化を進めていこうと考えており、今後はフランチャイズに加盟してくださる企業を獲得していくことが課題と捉えています。

障害がある人たちも
能動的に仕事ができる



リーフパックの説明も手書きでかわいらしく紹介



「FUN EAT MAKERS」のスタッフが水耕栽培野菜を確認の様子

Message

SDGsを活用したい企業へメッセージ

これまでの歩みを顧みると、持続可能な市場分野の調査、自社商品やサービスの競争優位性、人手不足の中での人材確保やコスト削減の方法など、企業として通常行う経営戦略を実践していたら、結果としてSDGsの目標に当てはまっていたというのが実感です。社会問題に向き合い、その解決策への取組をビジネスとして継続してきたことが、SDGs経営として皆様に評価されてきたのではないかと考えています。

